

第3号様式（第6条第1項関係）

市長	副市長	部長	課長	主幹・副主幹	主査・主査補	班員
付議・報告部課						

令和6年12月19日

会議結果報告書（行政経営戦略会議）

1 日時及び場所

令和6年12月19日（木）午前9時50分～ 本庁舎4階大委員会室

2 出席者

企画財政部 板橋部長  
企画政策課 齋藤主査補

3 件名

第6次総合計画基本構想（素案）について

4 会議結果

- 案のとおり決定する。
- 一部修正の上、決定する。
- 継続して検討する。
- 案を否決する。
- 報告を了承する。

5 会議内容

- ・5ページの3. 将来像の下部、将来像の説明について「循環」「挑戦」「守り」がどれかわかるようにしてほしい。  
→精査する。
- ・外国人との共生なども意識して前期基本計画を策定するように。  
→3ページの今後10年間の重要なテーマのうち（6）居場所・交流の場の創出において、触れている。今後前期基本計画を策定するうえで具体的に取組を考えていく。
- ・資料1の2ページ目のMVVについて、バリュー部分が6つの目指すまち以降となっており、曖昧なので、もう少し具体的に示せないか。  
→具体的には「6つの目指すまち」と「まちづくりの推進の考え方」が該当するため、そのように修正する。
- ・企業との兼ね合いを考えて前期基本計画を策定するように。  
→5. まちづくりの推進の考え方の＜共有＞＜分野横断＞＜連携・協働＞の基、取組を策定する過程で、企業との兼ね合いも意識して策定する。
- ・バリュー部分について、現在の順番を「挑戦」→「守り」→「共有」→「分野横断」→「連携・協働」の順にできないか。  
→掲載順について検討する。

備考 会議内容を簡潔に記載すること。

付議書(行政経営戦略会議)

部課名 企画財政部企画政策課

件名	第6次総合計画基本構想(素案)について							
計画の概要	<p><b>第6次総合計画基本構想の役割</b>                  基本構想は市の行政運営を総合的かつ計画的に推進していくための最上位に位置する計画である総合計画の一部。                  市の根本的な価値観を示した基本理念をはじめ、10年後の市の展望を示した将来像などで構成され、社会情勢等を踏まえた、今後10年間の市の目指す方向性を示す役割がある。</p> <p><b>計画期間</b>                  令和8年4月1日～令和18年3月31日</p> <p><b>体系と各項目の位置づけ</b>                  ①まちづくりの基本理念                  ②今後10年間の重要なテーマ                  ③将来像                  ④6つの目指すまち                  ⑤まちづくりの推進の考え方                  ⑥基本構想の全体像                  ⑦計画フレーム                  ⑧EBPM の考え方に基づく取組展開</p> <p>各項目の位置づけについては別紙1のとおり。</p>							
論点(決定を要する事項)	白井市第6次総合計画基本構想(素案)の可否について							
部内会議や関係課等との調整結果(主な意見・懸案事項)	<p>10月3日(水) 第3回部長会議……基本構想(素案)について                  主な意見:ロジックモデルに基づき、将来像からバックキャスト的に紐づくような体系にしたほうが良い→意見のとおり修正</p> <p>10月23日(水) 第2回総合計画審議会……基本構想(素案)について                  主な意見:記載されている取組について実際に実現性はあるか→基本構想は方向性を示す役割のため、取組や事業の記載ではなくその目的(方向性)を示す表現に修正</p> <p>11月27日(水) 第3回総合計画審議会……基本構想(素案)修正案について</p>							
今後のスケジュール	12月26日(木)～1月22日(水)……パブリックコメント 1月下旬～2月上旬頃 策定部会……基本構想(案)について 2月上旬頃 部長会議……基本構想(案)について 3月4日(火) 第4回総合計画審議会……基本構想答申(案)について 3月25日(火) 第5回総合計画審議会……基本構想答申について 6月 基本構想(案)の議決							
	項目	有無	方法(時期)		項目	有無	方法(時期)	
	条例規則	無			報道発表	無		
	議会説明	有	行政運営報告 12月	広報・HP等	有	1月広報 HP掲載		
	市民参加	有	パブリックコメント12月26日(木)～1月22日(水)					
	付議書公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分非 <input type="checkbox"/> 時限非 ( ) まで						
参考情報	案件提出事由	①市政運営の基本的な方針(規程第4条第2項第1号) ア 市政経営に関する事項						
	関係法令等							
	関係課							
	事業費	千円 (うち特定財源 千円)						
	カテゴリ	年代	全ての年代	場所	市内全域	目的	その他	手段

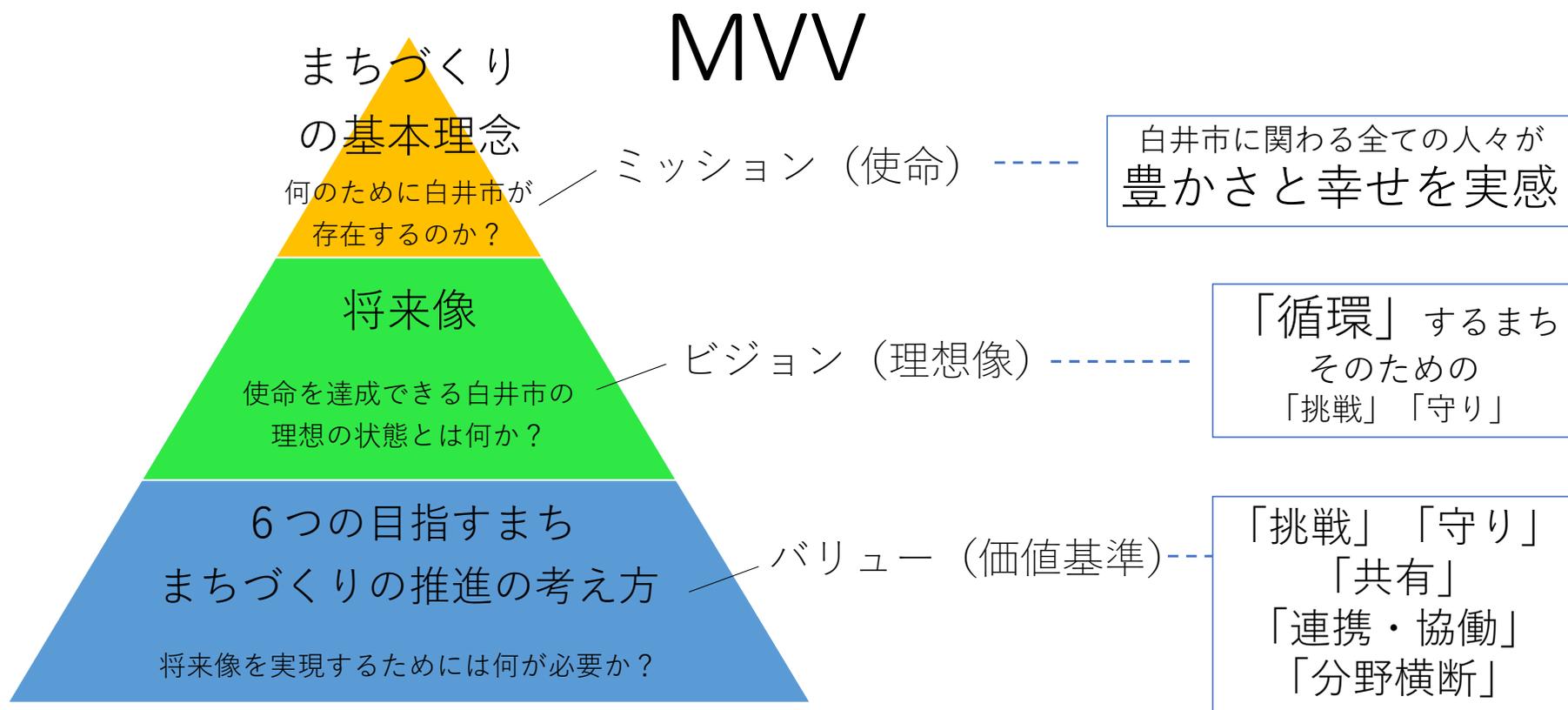
# 白井市第6次総合計画

基本構想（素案）

各項目の位置づけ

# 第6次総合計画 基本構想 (素案) の構成

- ①まちづくりの基本理念
- ②今後10年間の重要なテーマ
- ③将来像
- ④6つの目指すまち
- ⑤まちづくりの推進の考え方
- ⑥基本構想の全体像
- ⑦計画フレーム
- ⑧EBPMの考え方に基づく取組展開



## II. 基本構想

### 1. まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念とは、白井市のまちづくりの「理想」と、理想を実現するための基盤となる「まち」と「暮らし」の基本的な考え方です。

白井市を取り巻く環境は、社会経済情勢によって大きく変化しています。人口減少や少子高齢化、物価高騰、環境問題、災害の激甚化など、対応すべき社会課題は多様化し、厳しさを増しています。このような厳しい情勢であっても、行政や市民だけでなく、白井市に関わる全ての人々が連携・協働することで、“心と暮らしの豊かさを享受しつつ、幸せを実現”できると考えます。

そこで、第6次総合計画では、第5次総合計画の基本理念を踏まえつつ、「白井市に関わる全ての人々が豊かさと幸せを実感」することを理想として定めます。理想を実現するためには、「安心な暮らし」「健康な暮らし」「快適な暮らし」を営むことが重要と考えます。この3つの暮らしは、「安全なまち」「健全なまち」「便利なまち」を基盤とすることで、実現されるものです。

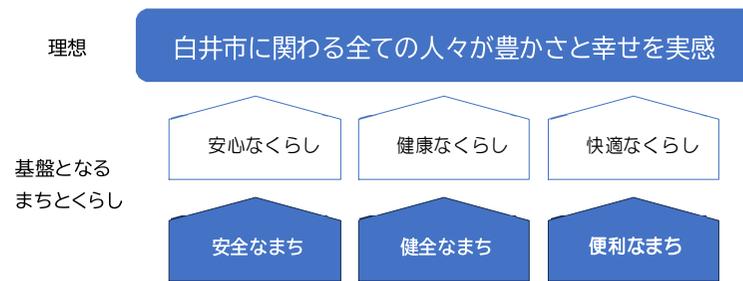


図 まちづくりの基本理念の考え方

#### 安全なまちで安心な暮らし

緊急時や災害時の備え、インフラの整備、住民同士の助け合いなどによって、“あらゆるリスクへの対策が立てられている”安全なまちを構築することで、誰もが安心してらせることです。

#### 健全なまちで健康な暮らし

住民同士の社会的なつながりや、自然と都市が融合した生活環境などによって、“地域が持続的に発展し調和がとれた”健全なまちを構築することで、誰もが心身共に健康的にくらせることです。

#### 便利なまちで快適な暮らし

生活に必要な商業施設の充実や、移動手段の確保などによって、“誰もが日常生活に支障がない環境が整った”便利なまちを構築することで、子どもから高齢者まで誰もが快適にくらせることです。

## ①まちづくりの基本理念

・何のために白井市が存在するのか？

白井市に関わる全ての人々が

豊かさと幸せを実感

市が大切にしている価値観

安全・安心

健全・健康

便利・快適

↓ 「まち」と「暮らし」に整理

安全なまちで  
安心な暮らし

健全なまちで  
健康な暮らし

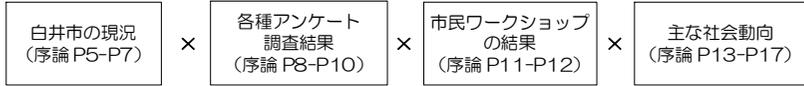
便利なまちで  
快適な暮らし

### 健全なまちとは？

生活環境が良く調和がとれたまちを指す。

## 2. 今後10年間の重要なテーマ

まちづくりの基本理念を念頭に置きつつ、序論で取り上げた「白井市の現況」、「各種アンケート調査結果」、「意見交換会の結果」、「主な社会動向」を踏まえ、今後10年間で取り組んでいくべき重要なテーマを以下のとおり設定します。



### 今後10年間の重要なテーマ

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実 | (6) 居場所・交流の場の創出      |
| (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実 | (7) 施設・インフラの維持管理や利活用 |
| (3) 良好な住環境の維持・整備      | (8) 移動・交通手段の充実       |
| (4) 産業の振興             | (9) 災害への対策           |
| (5) 企業の誘致・雇用の創出       | (10) 環境の保全と活用        |

#### (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実

千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増した白井市では、団塊の世代の人口比率が高く、少子高齢化は今後一層進行していくことが見込まれます。

持続可能なまちづくりを行うにあたっては、若い世代が定住し、人口のバランスを保つことが求められます。

結婚や子育てなどへの不安を抱える若い世代が多い中で、ライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくりが重要です。

また、白井市で子育てしたいと思える魅力を高めるために、充実した教育環境を整備することも重要です。

#### (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実

日本では高齢化と長寿化が進み、今後「人生100年時代」を迎えることが予測されています。白井市では、千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増し発展してきましたが、人口比率の高い団塊の世代は既に後期高齢者に属しており、10年後には、更に後期高齢者の人口比率が増加することが見込まれます。

人生100年時代に向けて、健康を維持しながら生涯にわたって学び、互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくりが求められます。

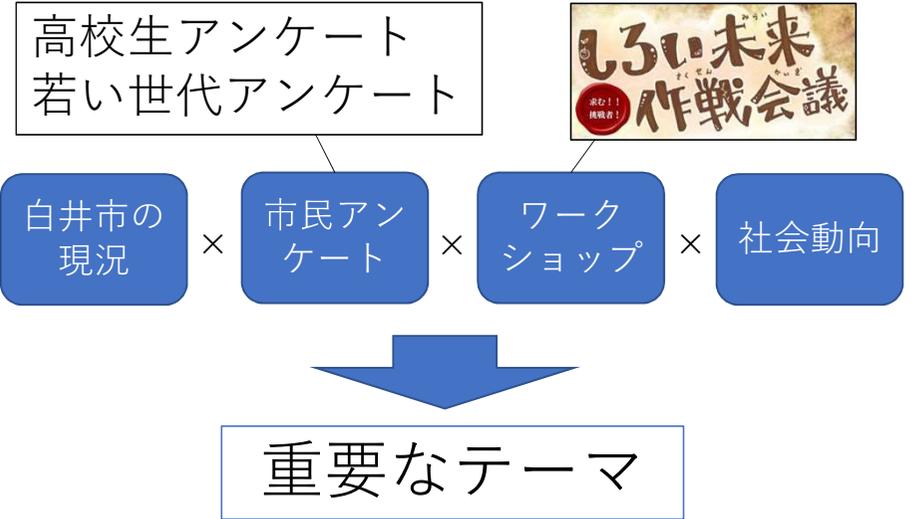
マーカー部分

重要なテーマの核（伝えたいこと）となる部分

## ② 今後10年間の重要なテーマ

市民参加・協働による計画づくりを進め、魅力あふれる白井を次世代に残していくため、子どもの声を施策に反映させる。

白井市第6次総合計画策定方針抜粋



・市多様な主体の意見を集約したもの

“白井市”第6次総合計画とは

行政のみならず

市民や市に関わるあらゆる組織を主体とした計画

基本理念とこれらのテーマを踏まえて将来像以降を設定

## II. 基本構想

### (3) 良好な住環境の維持・整備

白井市は、豊かなみどりと落ち着いた住環境が調和したまちです。

しかしながら、千葉ニュータウン事業による街開きから40年以上が経過している中で、将来にわたって良好な住環境を維持していくことが求められており、**建物の老朽化などへの対応**が重要です。

また、ニュータウン地域のみならず、白井市全体において高齢化や人口減少の進展に伴う**空き家や未利用地への対応**が求められています。

### (4) 産業の振興

白井市では、水はけのよい土壌を活かし、梨をはじめとした様々な農作物を生産しています。

しかしながら、農業の担い手の減少などにより、耕作放棄地の増加が一層進行することが懸念されることから、**持続可能な農業の実現**に向けて取り組んでいくことが重要です。

また、成田空港の拡張や北千葉道路の整備などによって、白井市を取り巻く環境が変化していくことが想定されています。

こうした広域的なアクセス向上などを好機と捉え、千葉県内陸で最大規模の**白井工業団地や商業の活性化**を図っていくことが求められています。

### (5) 企業の誘致・雇用の創出

白井市では、特に就職や転職を理由とした若い世代の転出が多くなっています。

若い世代に長く白井市に住み続けたいと感じてもらうためには、**市内に魅力的な働く場を増やす**ことが求められています。また、住まいと職場が近いことは、子育てしやすい環境づくりにもつながることが期待されます。

また、白井市では、下総台地というしっかりとした地盤をもち、付近に活断層が見受けられないなど、地震に強いことや安定した電力供給などを強みとして、データセンターなどの企業誘致が進んでいます。白井市が持続的に発展していくためにも、地域との調和を図りながら、**ポテンシャルを活かした企業誘致**を進めることが重要です。

### (6) 居場所・交流の場の創出

ライフスタイルの変化や多様化によって、組織や場所にとらわれない働き方や暮らし方などに変化が起き、それに伴いそれぞれのライフスタイルに適した様々な居場所が求められるようになっていきます。白井市においても同様に、居場所づくりの重要性が増えています。

近年、外国籍の人や障がいのある人など、住民が多様化する中で、共生社会の実現のためにも、**あらゆる人が安心できる場や交流できる場の創出**が求められています。

加えて、居場所や交流の場をベースとして、**多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくり**も求められています。

## 重要なテーマの核となる部分抜き出し

### (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実

①若い世代がライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくり

②充実した教育環境を整備

### (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実

③健康の維持

④生涯にわたって学ぶ

⑤互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくり

### (3) 良好な住環境の維持・整備

⑥建物の老朽化などへの対応

⑦空き家や未利用地への対応

### (4) 産業の振興

⑧持続可能な農業の実現

⑨白井工業団地や商業の活性化

### (5) 企業の誘致・雇用の創出

⑩市内に魅力的な働く場を増やす

⑪ポテンシャルを活かした企業誘致

### (6) 居場所・交流の場の創出

⑫あらゆる人が安心できる場や交流できる場の創出

⑬多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくり

(7) 施設・インフラの維持管理や利活用

白井市の施設やインフラの多くは、千葉ニュータウン事業によって整備されましたが、ニュータウンの街開きから40年以上経過しているため、老朽化などへの対応が求められています。

また、施設・インフラの維持管理にあたっては、既存ストックの有効活用に加え、人口減少や高齢化を見据えたマネジメントが重要です。

(8) 移動・交通手段の充実

現在の白井市民の主な移動手段は自家用車ですが、高齢化により、自家用車に依存せずに生活できる環境の重要性が増すことが想定されます。一方で、運転手の不足などによってバス路線の減便や廃止が進んでいます。

地域の実状に則しながら、高齢者をはじめとした、誰もが気軽に移動できる手段を確保することが求められています。

(9) 災害への対策

将来想定される首都直下地震や近年激甚化する自然災害に備えるためには、白井市の地勢を踏まえた被害の想定と、その想定に基づいた事前準備が必要です。

また、災害時の被害を最小限とするためには、早急にライフラインを復旧させる、または代替手段を確保することが重要です。

さらに、いざという時には、適切な行動がとれるように、防災意識の向上に努めるとともに、行政だけでなく、市民や企業が団結して自助・共助・公助によって対応できる体制づくりが求められています。

(10) 環境の保全と活用

近年、都市環境や生物多様性、景観といった視点で、自然環境の保全と都市緑化の推進が重要視されています。

白井市には、地域固有の特徴を有する谷津田や梨園、千葉ニュータウン事業で形成された公園や緑道など、多様なみどりが存在しています。

このような白井市の豊かな環境を、後世に残していくとともに活用していくことが求められています。

併せて、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けてカーボンニュートラルへの取組を進めることも重要です。

(7) 施設・インフラの維持管理や利活用

⑭施設やインフラの老朽化などへの対応

⑮既存ストックの有効活用

(8) 移動・交通手段の充実

⑯誰もが気軽に移動できる手段を確保

(9) 災害への対策

⑰防災意識の向上

⑱団結して自助・共助・公助によって対応できる体制づくり

(10) 環境の保全と活用

⑲豊かな環境を、後世に残していくとともに活用していくこと

重要なテーマの核となる部分は全部で①～⑲

## II. 基本構想

### 3. 将来像

重要なテーマを踏まえ、10年後の白井市の目指すべき方向性を示すものとして、将来像を定めます。

白井市は、台地上に形成された古代のムラに始まり、近世の宿場・牧など、長い歴史を紡いできました。その後、第二次世界大戦後の開拓事業や高度経済成長期以降の工業団地開発や千葉ニュータウン事業によって、大きく発展してきました。しかし、総人口は平成30年（2018年）の約64,000人をピークに減少傾向にあることから持続可能なまちづくりのあり方を模索していく必要があります。

## 循環

白井市は千葉ニュータウン事業に併せて同時期に多くの世帯が入居してきたため、今後、住民の高齢化及び建物やインフラの老朽化が急速に進んでいくことが予想されます。在来地区では、産業構造の変化や担い手不足により、農を中心とした営みが衰退しつつあります。こうしたリスクに対して、白井市に備わった資源を「循環」させ、関係する様々な人々が持続可能な営みを実現できるような環境や仕組みを生み出さなければなりません。

## 挑戦

広く国内や世界に目を向けると、社会課題は多様化、複雑化していますが、新たな技術革新や生活様式の変化などによって、新たな対応策も生まれています。特に、千葉ニュータウンエリアは、近年、データセンターや物流倉庫の立地場所として注目を集めるほか、将来的には成田空港の拡張や北千葉道路の延伸などによって、新たな開発需要などの発生も見込まれます。こうした、社会潮流をとらえ、新たな「挑戦」に踏み出すことが求められています。

## 守り

一方で、白井市には、豊かな自然環境やニュータウン事業で整備された良好な住環境があり、人とのつながりの中で白井らしい文化を育んできました。新たな循環を活性化し挑戦する中でも、将来の少子高齢化や人口減少を見据えながら、こうした環境や文化を「守り」、次世代に継承していかなければなりません。

以上を踏まえ、白井市の将来像を次のように定めます。

### 将来像

#### 世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち

この将来像には、白井市に関わる全ての人々の幸せあふれる笑顔と、心とくらしの豊かさを「守り」、絶やさないように、未来へつなげていく「挑戦」をすることで、世代を超えた笑顔と豊かさが絶えず「循環」するまちにしていきたいという想いが込められています。

## ③将来像

基本理念「市民の豊かさ幸せ」を達成するための白井市の理想像

まちの新陳代謝（「循環」）  
するための  
新たな「挑戦」と  
良さの「守り」

### みんなで作る 笑顔をつなげる 豊かなまち 1090票

市や地域等と連携してまちをつくることで笑顔がつながり、心の豊かさや自然等、一人一人が豊かさを実感できるまちを目指すという意味が込められています。

### 世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち 1182票

誰もが幸せあふれる笑顔を育み、未来へつなぐことができるまちを目指すという意味が込められています。

### トライ・チャレンジ 未来へつなぐ 豊かな絆を 育むまち811票

新しいことや困難なことに挑戦し、様々な世代（ライフステージ）が繋がって、人と人との深い結びつきを形成するという意味が込められています。

### みんなで紡ぎ 拓く 笑顔のふるさと 697票

みんなが持続可能な未来に向かって歩み、笑顔があふれ、豊かで幸せなまちを目指すという意味が込められています。

#### 4. 6つの目指すまち

将来像の実現に向けたまちづくりを進める上で目指すべき方向性として、「6つの目指すまち」を定めます。

人々の営みの中で、循環が活性化されるためには、時代の変化に応じて新たに「挑戦」していくことと、長い歴史の中で紡いできた白井らしさを「守る」ことが大切です。6つの目指すまちに向けて、世代や分野にとらわれずに白井市に関わる全ての人々が交わり、「挑戦」と「守り」を実践することで、「循環」を活性化し、将来像を実現していきます。

<p><b>①若い世代が定住したいまち</b></p> <p>若い世代が継続して居住し、人口構造のバランスがよいまちを目指します。 そのために、就学、就職、結婚、出産、子育てなどのライフステージの変化があっても、若い世代が安心・健康・快適にくらせる環境づくりを推進します。また、白井市で子育てしたいと思える充実した教育環境づくりを推進します。</p>	<p><b>②誰もが交流し支え合えるまち</b></p> <p>多様な主体が交流し相互理解を深め、共に支え合うことで地域課題を解決できるまちを目指します。 そのために、新たに居場所や交流の場の創出を進めるとともに、多くの人々がまちづくりへ参画できる仕組みづくりを推進します。また、既存の施設を有効活用した地域活動の活性化や誰もが気軽に移動できる環境づくりを推進します。</p>
<p><b>③自ら学び育ちチャレンジできるまち</b></p> <p>一人ひとりが自ら学び育ち、自らの能力を発揮するためにチャレンジし、生きがいを持ってくらせるまちを目指します。 そのために、子どもから高齢者まで、生涯にわたって成長できる環境づくりを進めるとともに、一人ひとりが地域の活性化につながる活動に挑戦できる仕組みづくりを推進します。また、多くの市民が、心身の健康を保ち・増進できる環境づくりを推進します。</p>	<p><b>④白井らしい環境が残るまち</b></p> <p>自然環境と都市環境が調和する「白井らしさ」を持つ資源が次世代に継承されるまちを目指します。 そのために、「白井らしさ」を持つ資源を発掘・共有し、自然環境の保全や利活用を進めるとともに、持続可能な農業を実現し、みんなが誇りに思える白井市の特産品を後世に残す取組を推進します。 また、老朽化した建物への対応を進めるとともに、空き家対策や未利用地の有効活用を推進します。</p>
<p><b>⑤新しい産業が栄えるまち</b></p> <p>分野を超えた連携などによって、新たな産業とともに発展するまちを目指します。 そのために、既存の産業が持続的に発展しつつ、互いの強みや白井市の特性を活かした新しい産業の振興を推進します。 また、地域のポテンシャルを生かした企業誘致により、新しい産業を発展させるとともに、雇用の創出を推進します。</p>	<p><b>⑥災害に強いまち</b></p> <p>災害に強く、安全・安心を基盤に永く発展し続けるまちを目指します。 そのために、既存のインフラの維持管理や修繕を着実に実行するとともに、既存施設の有効活用を推進します。 また、日ごろから防災意識の向上や、市民や企業などが団結した地域全体での災害体制づくりを推進します。</p>

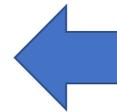
## ④6つの目指すまち

将来像をより具体化したもの

重要なテーマを「挑戦」と「守り」の視点で考えて6つのまちを導き出した

重要なテーマの核となる部分①～⑱を「6つの目指すまち」に当てはめる

作文



<p><b>①若い世代が定住したいまち</b></p> <p>①若い世代がライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくり ②充実した教育環境を整備</p>	<p><b>②誰もが交流し支え合えるまち</b></p> <p>⑤互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくり ⑫あらゆる人が安心できる場や交流できる場の創出 ⑬多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくり ⑮既存ストックの有効活用 ⑯誰もが気軽に移動できる手段を確保</p>
<p><b>③自ら学び育ちチャレンジできるまち</b></p> <p>②' 充実した教育環境を整備 ③健康の維持 ④生涯にわたって学ぶ ⑬' 多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくり</p>	<p><b>④白井らしい環境が残るまち</b></p> <p>⑥建物の老朽化などへの対応 ⑦空き家や未利用地への対応 ⑧持続可能な農業の実現 ⑱豊かな環境を、後世に残していくとともに活用していくこと</p>
<p><b>⑤新しい産業が栄えるまち</b></p> <p>⑧' 持続可能な農業の実現 ⑨白井工業団地や商業の活性化 ⑩市内に魅力的な働く場を増やす ⑪ポテンシャルを活かした企業誘致</p>	<p><b>⑥災害に強いまち</b></p> <p>⑭施設やインフラの老朽化などへの対応 ⑮' 既存ストックの有効活用 ⑰防災意識の向上 ⑱団結して自助・共助・公助によって対応できる体制づくり</p>

※' (ダッシュ) がついた番号は重複して存在しているもの

## II. 基本構想

### 5. まちづくりの推進の考え方

まちづくりを推進するためには、多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが不可欠です。将来像と6つの目指すまちの実現に向けて、まちづくりの推進の考え方を示します。

#### (1) 課題や資源の〈共有〉

社会情勢の変化によって多様な行政需要が高まる中、白井市では持続可能な行財政運営に努めながら、市民と行政がそれぞれの役割分担や連携の下でまちづくりを進めてきました。

人口減少などを踏まえると、今後も白井市を取り巻く状況はより厳しくなることが考えられます。

一方、近年関心の高まりを見せている脱炭素社会の実現や人手不足への対応、先進技術の導入、デジタル技術の活用など、社会課題はより多様化・高度化が進んでいます。

限りある「資源（空間・人材・情報など）」の中で将来像を実現していくために、白井市に関わる様々な主体の間で課題や資源を共有し、新たな価値を創出するとともに、地域課題を解決することが求められます。

そのため白井市は、課題や資源を共有するため、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム※などの既存のプラットフォームの活用や新たなプラットフォーム（仕組み）をつくることにより取り組んでいきます。

#### (2) 多様な主体との〈連携・協働〉

まちづくりの主役は市民であり、まちづくりにおける課題は、より身近なところで解決されることが望まれます。

「補完性の原理」※に基づくと、関係する主体が相互に支え合い、それぞれが主体的にまちづくりに取り組んでいくことが重要です。行政の役割としては、市民や地域の取組を補完するとともに、多様な主体自らの活動や支え合いを促進するような環境整備が求められます。

そのため白井市は、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実させていきます。

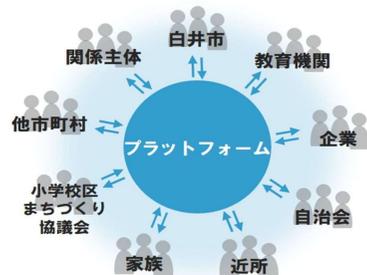


図 課題・資源の〈共有〉イメージ

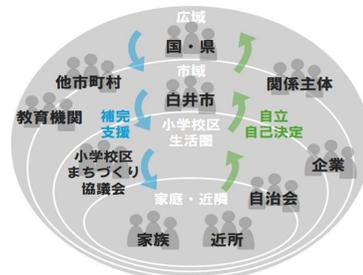


図 多様な主体との〈連携・協働〉イメージ

II-7

※地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム  
SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として内閣府で設置しているもの。

※補完性の原理  
より身近な単位の自主性・自立性を最大限に尊重し、対応が困難な事柄については、より大きな単位が補完・支援することを原則とする考え方。

## ⑤まちづくりの推進の考え方

### 1 〈共有〉

空間（場所）  
人材（才能）  
情報（技術） など

### 既存のプラットフォームの活用

- ・官民連携プラットフォーム（内閣府）
- ・『関係人口』ポータルサイト（総務省）

### 地域人材が気軽に参加できる仕組み

### 2 〈連携・協働〉

- ①個人でできることは個人で解決する（自助）
- ②個人でできないときは、まず家庭がサポートする（互助）
- ③家庭で解決できないときは、地域がサポートする（共助）
- ④①～③で、どうしても解決できない問題について、はじめて政府が問題解決に乗り出す（公助）

「愛知県 II 補完性の原理と地方分権」より一部抜粋

地域などでできることや市でできる支援を整理し、取組を推進する

(3) <分野横断>での取組

社会問題が多様化・高度化する中では、単一の部署の中だけでは対応が難しくなっています。また、各々のライフステージの変化に寄らず、切れ目ない行政支援の重要性も増えています。

より有効性・効率性の高い取組を推進するには、課題解決に向けて関係する多様な人々が連携して取り組んでいくことが求められます。

そのため白井市は、分野にとらわれず全体で課題を共有・認識し、一体となって課題を解決する体制を構築していきます。



### 3 <分野横断>

切れ目ない支援

だけではなく

各課が主導の事業も  
課題を共有・解決

## II. 基本構想

### 6. 基本構想の全体像

本基本構想の全体像を次のように示します。



図 基本構想の全体像

## 7. 計画フレーム

計画を定める上での基本的大枠となる目標を定めます。

### 7.1 将来人口目標

#### (1) 総人口

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「日本の将来推計人口（令和5年推計）」において、白井市の人口は令和2年（2020年）から減少に転じ、本基本構想の目標年次である令和17年（2035年）には59,647人となる見込みです。

将来像に向けて、白井市に関わる全ての人々が連携・協働してまちづくりを進めることで、多様な世代やの定住や、市内外で白井市に関わる人々が増えていくことを想定し、人口6万人以上を維持することを目標とします。

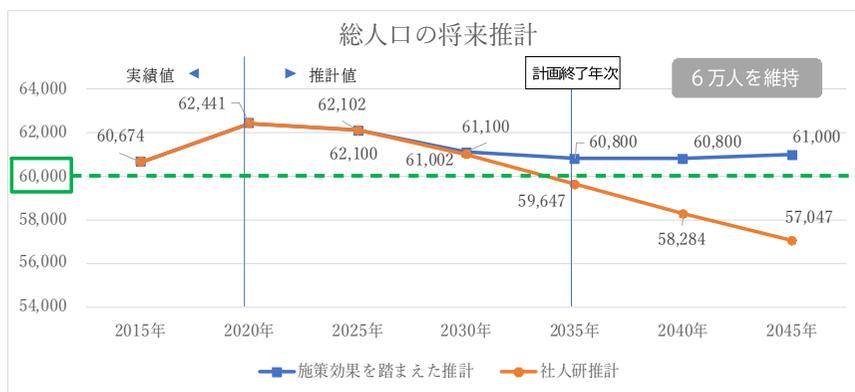


図 白井市の将来人口推計（総人口）  
出典：「令和6年度人口推計報告書」

## ⑦計画フレーム

計画を定める上での基本的大枠となる目標

### (1) 将来人口目標 6万人以上をキープ

若い世代や子育て世代への支援の充実によって、生産年齢人口や年少人口が増加することを見込む

## II. 基本構想

### (2) 年齢3区分別人口

年齢3区分別人口については、65歳以上の高齢者人口が増加する一方で、15歳未満の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は減少傾向ですが、若い世代や子育て世代への支援の充実によって、生産年齢人口や年少人口が増加することを見込みます。

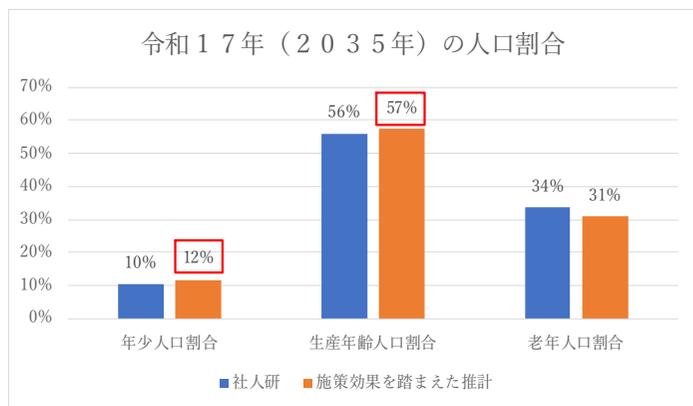


図 白井市の将来人口推計(年齢3区分別人口)  
出典:「令和6年度人口推計報告書」

7.2 将来都市構造

将来都市構造は次のように定めます。

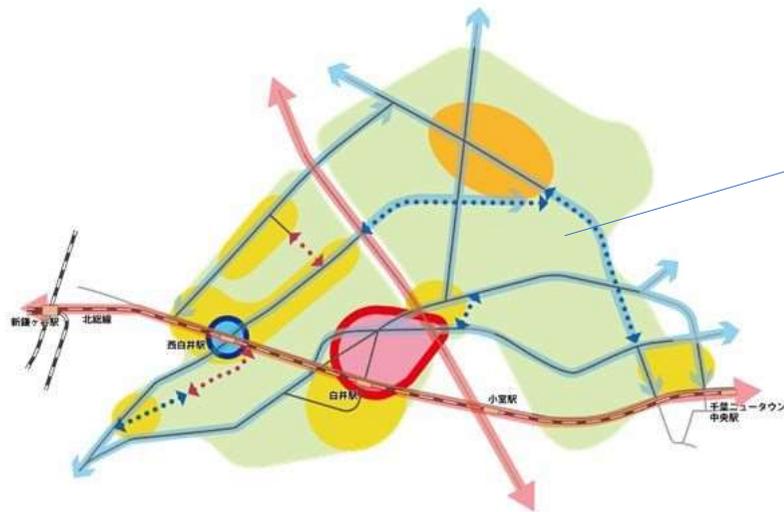
「市街地ゾーン」では、人のくらしや産業を中心としたまちづくりを進めます。

「人とみどりの共生ゾーン」は、人とみどりが共生しながら、地域の特性や魅力、ポテンシャルを生かしたまちづくりを進めます。

「中心都市拠点」では、コンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進めます。「生活拠点」では、地域住民のくらしを支える拠点づくりを進めます。

また、「中心都市拠点」や「生活拠点」と市内の各地域、そして市外を「広域幹線軸」や「地域軸」によって結ぶことで、にぎわいの創出や利便性の向上を図ります。

(2) 将来都市構造



人とみどりの共生ゾーン

人とみどりが共生しながら、まちの発展のポテンシャルを秘めたエリア

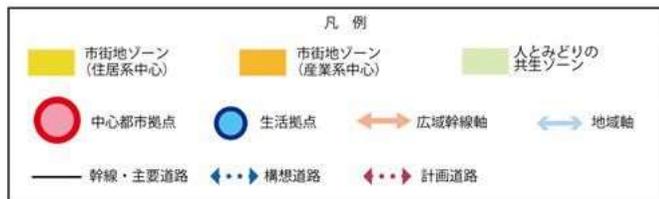


図 10年後の白井市の将来都市構造図

## II. 基本構想

### 8. EBPMの考え方に基づく取組展開

将来像を実現するための取組の考え方を示します。

EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）とは、たまたま見聞きした事例や経験ではなく、データや合理的根拠（エビデンス）をもとに、政策（ポリシー）を立案することです。

このEBPMを実現するために、ロジックモデルを活用します。

ロジックモデルとは、政策の成果目標（アウトカム）や活動目標（アウトプット）、活動（アクティビティ）を視覚的に整理し、因果関係を明確にするフレームワークです。

ロジックモデルを作成する際には、事業により最終的に達成したい状況（最終アウトカム）の検討からはじめます。その上で、その最終的に達成したい状況を実現するためには何かが必要か、という観点から逆算して中間アウトカム、初期アウトカム、アウトプットや活動、そのために必要な資源を検討します。

ロジックモデルを用いて論理的にわかりやすく整理することで、より効果的な取組を展開していきます。

出典：内閣府HP

現状把握 ・課題設定	インプット (資源)	アクティビティ (活動)	アウトプット (活動目標・実績)	アウトカム (成果目標・実績)	インパクト (国民・社会への影響)
事業を行う背景(現状)、解決すべき問題・課題	事業実施のために投入する予算等	実施する事業の内容	事業の活動目標・実績	事業活動を通じて得られる成果目標・実績。必要に応じて、事業活動の波及効果の時間軸に沿って、短期・中期・長期なものと区分できる ※短期アウトカムは事業活動を通じて期待される短期的成果、中期・長期アウトカムはそれぞれ短期的成果・中期的成果の後に波及的に期待される成果を言う	事業活動を通じて実現すべき最終目的

参考図 ロジックモデルの考え方

## ⑧EBPMの考え方に基づく取組展開

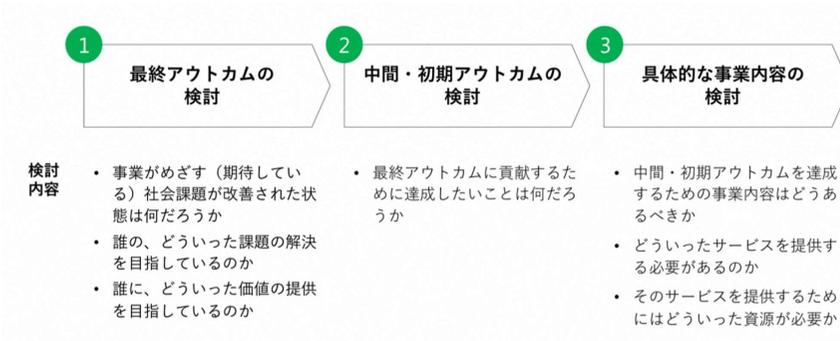
# EBPMとは

エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング  
根拠 政策

根拠を基に政策を作りましょう  
ということ



参考図 ロジックモデルの考え方作成イメージ



参考図 ロジックモデル作成の流れ

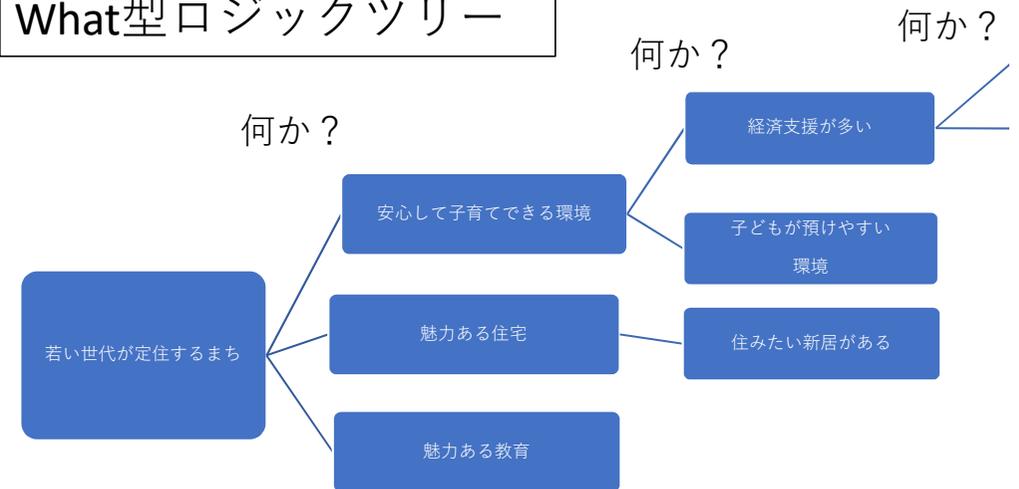
出典:「ロジックモデル作成ガイド」(日本財団)

# ロジックモデルとは

## 論理

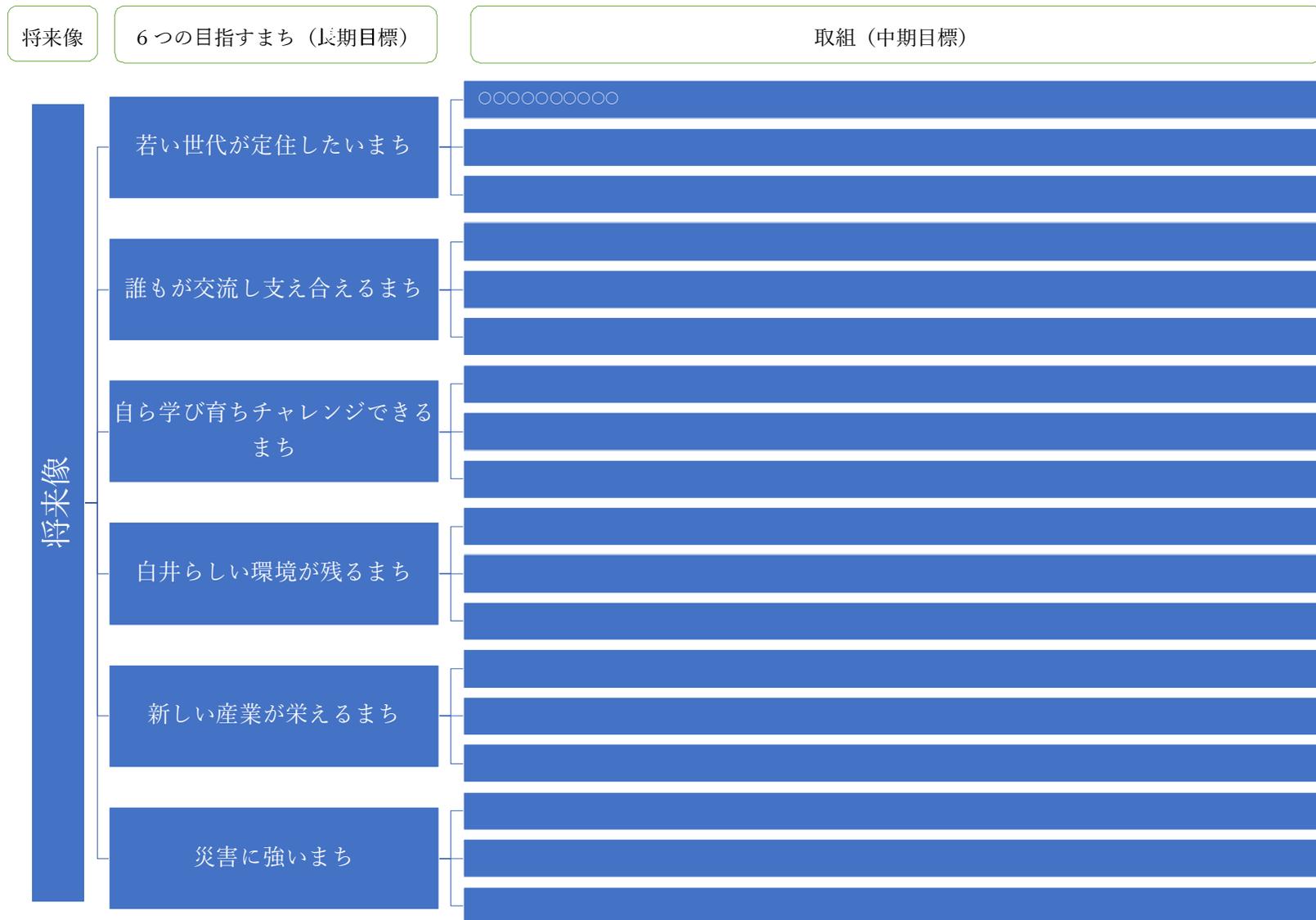
### 施策の論理的な構造

#### What型ロジックツリー



# ロジックモデルに基づき基本計画を策定する

第6次前期基本計画の施策体系図のイメージ



# 白井市第6次総合計画 基本構想(素案)



## Ⅱ. 基本構想

### 1. まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念とは、白井市のまちづくりの「理想」と、理想を実現するための基盤となる「まち」と「暮らし」の基本的な考え方です。

白井市を取り巻く環境は、社会経済情勢によって大きく変化しています。人口減少や少子高齢化、物価高騰、環境問題、災害の激甚化など、対応すべき社会課題は多様化し、厳しさを増しています。このような厳しい情勢であっても、行政や市民だけでなく、白井市に関わる全ての人々が連携・協働することで、“心と暮らしの豊かさを享受しつつ、幸せを実現”できると考えます。

そこで、第6次総合計画では、第5次総合計画の基本理念を踏まえつつ、「白井市に関わる全ての人々が豊かさを実感」することを理想として定めます。理想を実現するためには、「安心な暮らし」「健康な暮らし」「快適な暮らし」を営むことが重要と考えます。この3つの暮らしは、「安全なまち」「健全なまち」「便利なまち」を基盤とすることで、実現されるものです。

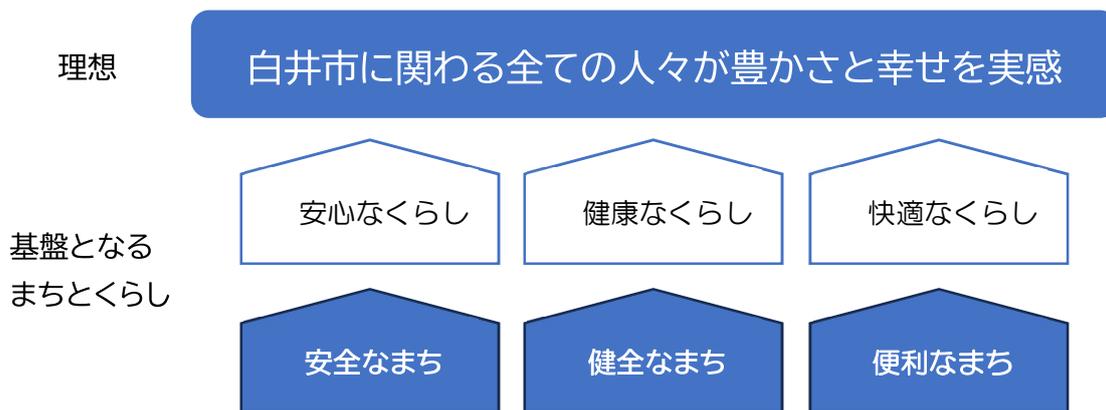


図 まちづくりの基本理念の考え方

#### 安全なまちで安心な暮らし

緊急時や災害時の備え、インフラの整備、住民同士の助け合いなどによって、“あらゆるリスクへの対策が立てられている”安全なまちを構築することで、誰もが安心してくらすことです。

#### 健全なまちで健康な暮らし

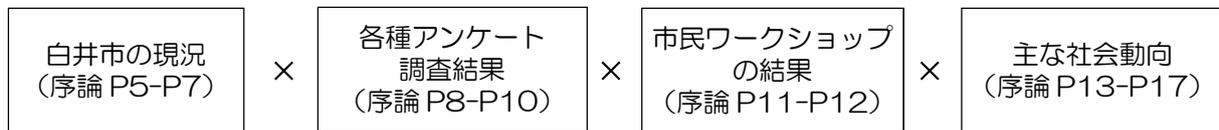
住民同士の社会的なつながりや、自然と都市が融合した生活環境などによって、“地域が持続的に発展し調和がとれた”健全なまちを構築することで、誰もが心身共に健康的にくらすことです。

#### 便利なまちで快適な暮らし

生活に必要な商業施設の充実や、移動手段の確保などによって、“誰もが日常生活に支障がない環境が整った”便利なまちを構築することで、子どもから高齢者まで誰もが快適にくらすことです。

## 2. 今後10年間の重要なテーマ

まちづくりの基本理念を念頭に置きつつ、序論で取り上げた「白井市の現況」、「各種アンケート調査結果」、「意見交換会の結果」、「主な社会動向」を踏まえ、今後10年間で取り組んでいくべき重要なテーマを次のように定めます。



### 今後10年間の重要なテーマ

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実 | (6) 居場所・交流の場の創出      |
| (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実 | (7) 施設・インフラの維持管理や利活用 |
| (3) 良好な住環境の維持・整備      | (8) 移動・交通手段の充実       |
| (4) 産業の振興             | (9) 災害への対策           |
| (5) 企業の誘致・雇用の創出       | (10) 環境の保全と活用        |

#### (1) 若い世代や子育て世代への支援の充実

千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増した白井市では、団塊の世代の人口比率が高く、少子高齢化は今後一層進行していくことが見込まれます。

持続可能なまちづくりを行うにあたっては、若い世代が定住し、人口のバランスを保つことが求められます。

結婚や子育てなどへの不安を抱える若い世代が多い中で、ライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくりが重要です。

また、白井市で子育てしたいと思える魅力を高めるために、充実した教育環境を整備することも重要です。

#### (2) 人生100年時代に向けた福祉の充実

日本では高齢化と長寿化が進み、今後「人生100年時代」を迎えることが予測されています。白井市では、千葉ニュータウン事業に伴い人口が急増し発展してきましたが、人口比率の高い団塊の世代は既に後期高齢者に該当しており、10年後には、更に後期高齢者の人口比率が増加することが見込まれます。

人生100年時代に向けて、健康を維持しながら生涯にわたって学び、互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくりが求められます。

## II. 基本構想

### (3) 良好な住環境の維持・整備

白井市は、豊かなみどりと落ち着いた住環境が調和したまちです。

しかしながら、千葉ニュータウン事業による街開きから40年以上が経過している中で、将来にわたって良好な住環境を維持していくことが求められており、建物の老朽化などへの対応が重要です。

また、ニュータウン地域のみならず、白井市全体において高齢化や人口減少の進展に伴う空き家や未利用地への対応が求められています。

### (4) 産業の振興

白井市では、水はけのよい土壌を活かし、梨をはじめとした様々な農作物を生産しています。

しかしながら、農業の担い手の減少などにより、耕作放棄地の増加が一層進行することが懸念されることから、持続可能な農業の実現に向けて取り組んでいくことが重要です。

また、成田空港の拡張や北千葉道路の整備などによって、白井市を取り巻く環境が変化していくことが想定されています。

こうした広域的なアクセス向上などを好機と捉え、千葉県内陸で最大規模の白井工業団地や商業の活性化を図っていくことが求められています。

### (5) 企業の誘致・雇用の創出

白井市では、特に就職や転職を理由とした若い世代の転出が多くなっています。

若い世代に長く白井市に住み続けたいと感じてもらうためには、市内に魅力的な働く場を増やすことが求められています。また、住まいと職場が近いことは、子育てしやすい環境づくりにもつながることが期待されます。

また、白井市では、下総台地というしっかりとした地盤をもち、付近に活断層が見受けられないなど、地震に強いことや安定した電力供給などを強みとして、データセンターなどの企業誘致が進んでいます。白井市が持続的に発展していくためにも、地域との調和を図りながら、ポテンシャルを活かした企業誘致を進めることが重要です。

### (6) 居場所・交流の場の創出

ライフスタイルの変化や多様化によって、組織や場所にとらわれない働き方や暮らし方などに変化が起き、それに伴いそれぞれのライフスタイルに適した様々な居場所が求められるようになっていきます。白井市においても同様に、居場所づくりの重要性が増しています。

近年、外国籍の人や障がいのある人など、住民が多様化する中で、共生社会の実現のためにも、あらゆる人が安心できる場や交流できる場の創出が求められています。

加えて、居場所や交流の場の創出を基盤として、多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくりも求められています。

(7) 施設・インフラの維持管理や利活用

白井市の施設やインフラの多くは、千葉ニュータウン事業によって整備されましたが、ニュータウンの街開きから40年以上経過しているため、老朽化などへの対応が求められています。

また、施設・インフラの維持管理にあたっては、既存ストックの有効活用に加え、人口減少や高齢化を見据えたマネジメントが重要です。

(8) 移動・交通手段の充実

現在の白井市民の主な移動手段は自家用車ですが、高齢化により、自家用車に依存せずに生活できる環境の重要性が増すことが想定されます。一方で、運転手の不足などによってバス路線の減便や廃止が進んでいます。

地域の実状に則しながら、高齢者をはじめとした、誰もが気軽に移動できる手段を確保することが求められています。

(9) 災害への対策

将来想定される首都直下地震や近年激甚化する自然災害に備えるためには、白井市の地勢を踏まえた被害の想定と、その想定に基づいた事前準備が必要です。

また、災害時の被害を最小限とするためには、早期にライフラインを復旧させる、または代替手段を確保することが重要です。

さらに、いざという時には、適切な行動がとれるように、防災意識の向上に努めるとともに、行政だけでなく、市民や企業が団結して自助・共助・公助によって対応できる体制づくりが求められています。

(10) 環境の保全と活用

近年、都市環境や生物多様性、景観といった視点で、自然環境の保全と都市緑化の推進が重要視されています。

白井市には、地域固有の特徴を有する谷津田や梨園、千葉ニュータウン事業で形成された公園や緑道など、多様なみどりが存在しています。

このような白井市の豊かな環境を、後世に残していくとともに活用していくことが求められています。

併せて、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けてカーボンニュートラルへの取組を進めることも重要です。

## II. 基本構想

### 3. 将来像

重要なテーマを踏まえ、10年後の白井市の目指すべき方向性を示すものとして、将来像を定めます。

白井市は、台地上に形成された古代のムラに始まり、近世の宿場・牧など、長い歴史を紡いできました。その後、第二次世界大戦後の開拓事業や高度経済成長期以降の工業団地開発や千葉ニュータウン事業によって、大きく発展してきました。しかし、総人口は平成30年（2018年）の約64,000人をピークに減少傾向にあることから持続可能なまちづくりのあり方を模索していく必要があります。

## 循環

白井市は千葉ニュータウン事業に併せて同時期に多くの世帯が入居してきたため、今後、住民の高齢化及び建物やインフラの老朽化が急速に進んでいくことが予想されます。在来地区では、産業構造の変化や担い手不足により、農を中心とした営みが衰退しつつあります。こうしたリスクに対して、白井市に備わった資源を「循環」させ、関係する様々な人々が持続可能な営みを実現できるような環境や仕組みを生み出さなければなりません。

## 挑戦

広く国内や世界に目を向けると、社会課題は多様化、複雑化していますが、新たな技術革新や生活様式の変化などによって、新たな対応策も生まれています。特に、千葉ニュータウンエリアは、近年、データセンターや物流倉庫の立地場所として注目を集めるほか、将来的には成田空港の拡張や北千葉道路の延伸などによって、新たな開発需要などの発生も見込まれます。こうした、社会潮流をとらえ、新たな「挑戦」に踏み出すことが求められています。

## 守り

一方で、白井市には、豊かな自然環境やニュータウン事業で整備された良好な住環境があり、人とのつながりの中で白井らしい文化を育んできました。新たな循環を活性化し挑戦する中でも、将来の少子高齢化や人口減少を見据えながら、こうした環境や文化を「守り」、次世代に継承していかなければなりません。

以上を踏まえ、白井市の将来像を次のように定めます。

### 将来像

## 世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち

この将来像には、白井市に関わる全ての人々の幸せあふれる笑顔と、心とくらしの豊かさを「守り」、絶やさないように、未来へつなげていく「挑戦」をすることで、世代を超えた笑顔と豊かさが絶えず「循環」するまちにしていきたいという想いが込められています。

## 4. 6つの目指すまち

将来像の実現に向けたまちづくりを進める上で目指すべき方向性として、「6つの目指すまち」を定めます。

人々の営みの中で、循環が活性化されるためには、時代の変化に応じて新たに「挑戦」していくことと、長い歴史の中で紡いできた白井らしさを「守る」ことが大切です。6つの目指すまちに向けて、世代や分野にとらわれずに白井市に関わる全ての人々が交わり、「挑戦」と「守り」を実践することで、「循環」を活性化し、将来像を実現していきます。

### ①若い世代が定住したいまち

若い世代が継続して居住し、人口構造のバランスがよいまちを目指します。

そのために、就学、就職、結婚、出産、子育てなどのライフステージの変化があっても、若い世代が安心・健康・快適にらせる環境づくりを推進します。また、白井市で子育てしたいと思える充実した教育環境づくりを推進します。

### ②誰もが交流し支え合えるまち

多様な主体が交流し相互理解を深め、共に支え合うことで地域課題を解決できるまちを目指します。

そのために、新たに居場所や交流の場の創出を進めるとともに、多くの人々がまちづくりへ参画できる仕組みづくりを推進します。また、既存の施設を有効活用した地域活動の活性化や誰もが気軽に移動できる環境づくりを推進します。

### ③自ら学び育ちチャレンジできるまち

一人ひとりが自ら学び育ち、自らの能力を発揮するためにチャレンジし、生きがいを持ってらせるまちを目指します。

そのために、子どもから高齢者まで、生涯にわたって成長できる環境づくりを進めるとともに、一人ひとりが地域の活性化につながる活動に挑戦できる仕組みづくりを推進します。また、多くの市民が、心身の健康を保ち・増進できる環境づくりを推進します。

### ④白井らしい環境が残るまち

自然環境と都市環境が調和する「白井らしさ」を持つ資源が次世代に継承されるまちを目指します。

そのために、「白井らしさ」を持つ資源を発掘・共有し、自然環境の保全や利活用を進めるとともに、持続可能な農業を実現し、みんなが誇りに思える白井市の特産品を後世に残す取組を推進します。

また、老朽化した建物への対応を進めるとともに、空き家対策や未利用地の有効活用を推進します。

### ⑤新しい産業が栄えるまち

分野を超えた連携などによって、新たな産業とともに発展するまちを目指します。

そのために、既存の産業が持続的に発展しつつ、互いの強みや白井市の特性を活かした新しい産業の振興を推進します。

また、地域のポテンシャルを生かした企業誘致により、新しい産業を発展させるとともに、雇用の創出を推進します。

### ⑥災害に強いまち

災害に強く、安全・安心を基盤に永く発展し続けるまちを目指します。

そのために、既存のインフラの維持管理や修繕を着実に実行するとともに、既存施設の有効活用を推進します。

また、日ごろから防災意識の向上や、市民や企業などが団結した地域全体での災害体制づくりを推進します。

## II. 基本構想

### 5. まちづくりの推進の考え方

まちづくりを推進するためには、多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが不可欠です。将来像と6つの目指すまちの実現に向けて、まちづくりの推進の考え方を示します。

#### (1) 課題や資源の<共有>

社会情勢の変化によって多様な行政需要が高まる中、白井市では持続可能な行財政運営に努めながら、市民と行政がそれぞれの役割分担や連携の下でまちづくりを進めてきました。

人口減少などを踏まえると、今後も白井市を取り巻く状況はより厳しくなることが考えられます。

一方、近年関心の高まりを見せている脱炭素社会の実現や人手不足への対応、先進技術の導入、デジタル技術の活用など、社会課題はより多様化・高度化が進んでいます。

限りある「資源（空間・人材・情報など）」の中で将来像を実現していくために、白井市に関わる様々な主体の間で課題や資源を共有し、新たな価値を創出するとともに、地域課題を解決することが求められます。

そのため白井市は、課題や資源を共有するため、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム※などの既存のプラットフォームの活用や新たなプラットフォーム（仕組み）をつくることにより取り組んでいきます。

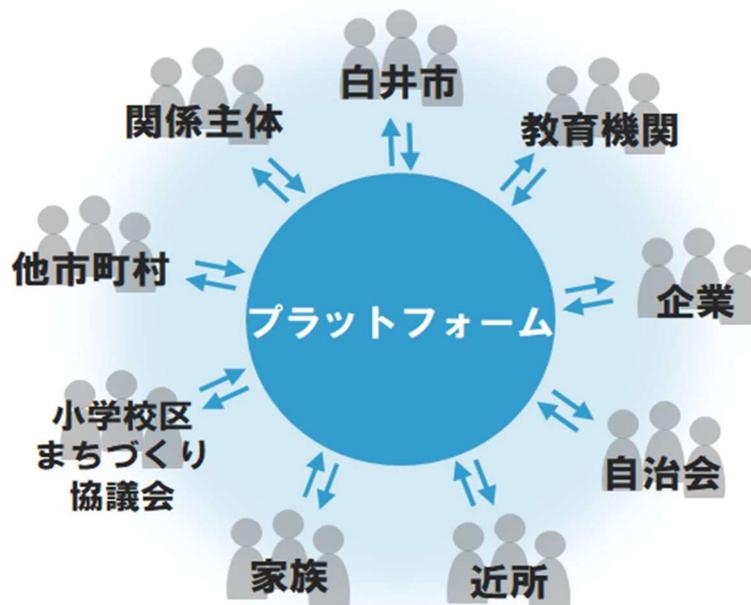


図 課題・資源の<共有>イメージ

(2) <分野横断>での取組

社会問題が多様化・高度化する中では、単一の部署の中だけでは対応が難しくなっています。また、各々のライフステージの変化によらず、切れ目ない行政支援の重要性も増えています。

より有効性・効率性の高い取組を推進するには、課題解決に向けて関係する多様な人々が連携して取り組んでいくことが求められます。

そのため白井市は、分野にとらわれず全体で課題を共有・認識し、一体となって課題を解決する体制を構築していきます。



(3) 多様な主体との<連携・協働>

まちづくりの主役は市民であり、まちづくりにおける課題は、より身近なところで解決されることが望まれます。

「補完性の原理」※に基づくと、関係する主体が相互に支え合い、それぞれが主体的にまちづくりに取り組んでいくことが重要です。行政の役割としては、市民や地域の取組を補完するとともに、多様な主体自らの活動や支え合いを促進するような環境整備が求められます。

そのため白井市は、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実させていきます。

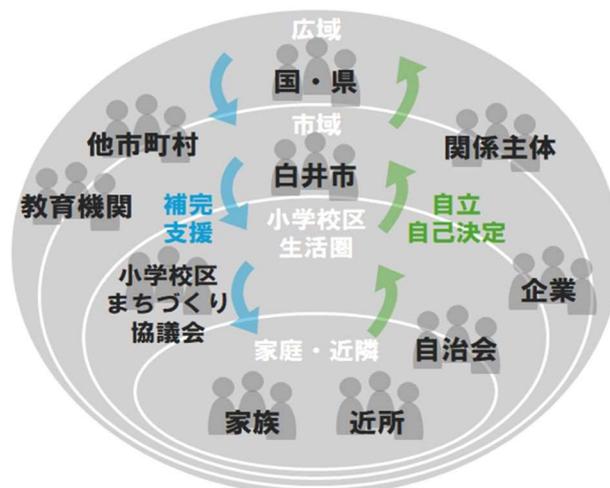


図 多様な主体との<連携・協働>イメージ

※補完性の原理

より身近な単位の自主性・自立性を最大限に尊重し、対応が困難な事柄については、より大きな単位が補完・支援をすることを原則とする考え方。

## 6. 基本構想の全体像

基本構想の全体像を次のように示します。



図 基本構想の全体像

## 7. 計画フレーム

計画を定める上での基本的大枠となる目標を定めます。

### 7.1 将来人口目標

#### (1) 総人口

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「日本の将来推計人口（令和5年推計）」において、白井市の人口は令和2年（2020年）から減少に転じ、本基本構想の目標年次である令和17年（2035年）には59,647人となる見込みです。

将来像に向けて、白井市に関わる全ての人々が連携・協働してまちづくりを進めることで、多様な世代の定住や、市内外で白井市に関わる人々が増えていくことを想定し、人口6万人以上を維持することを目標とします。

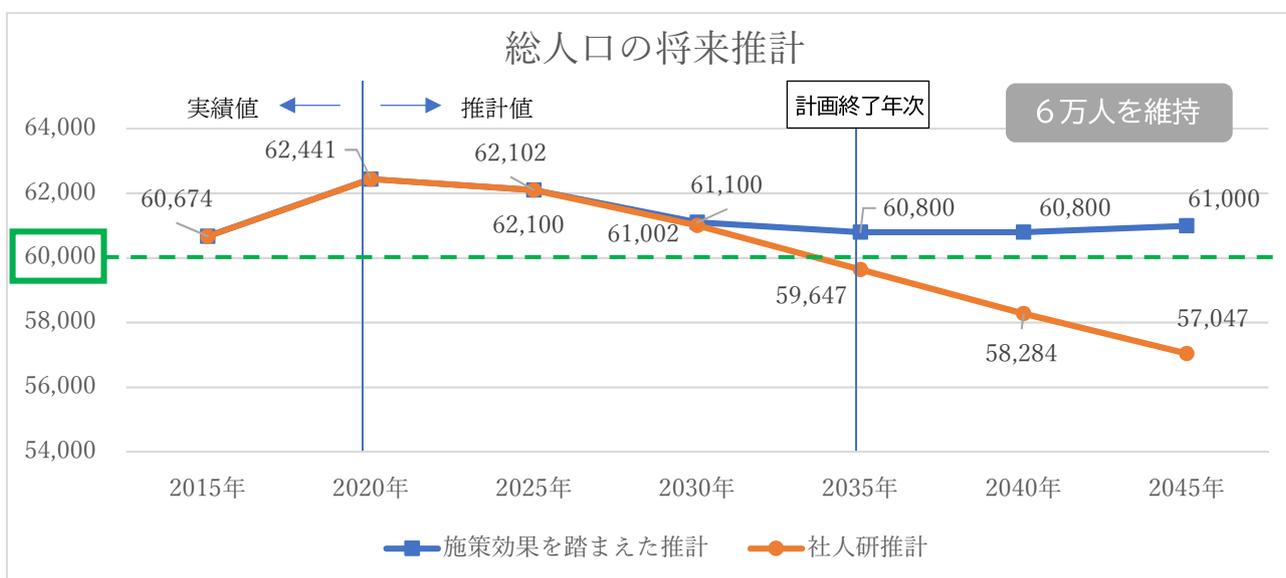


図 白井市の将来人口推計（総人口）

出典：「令和6年度人口推計報告書」

## Ⅱ. 基本構想

### (2) 年齢3区分別人口

年齢3区分別人口については、65歳以上の高齢者人口が増加する一方で、15歳未満の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は減少傾向ですが、若い世代や子育て世代への支援の充実によって、生産年齢人口の減少を緩やかにし、年少人口を維持することを見込みます。

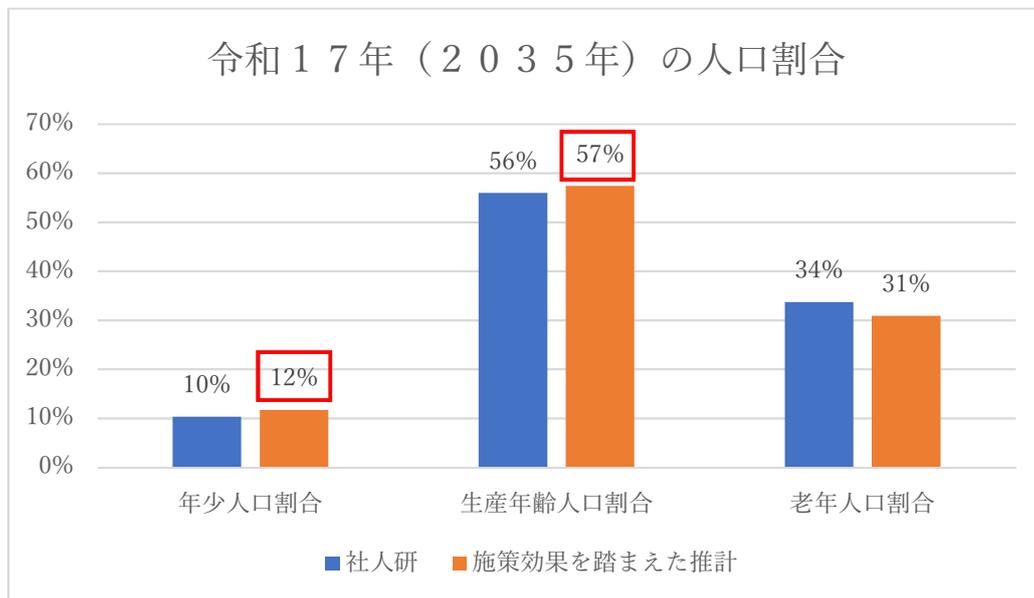
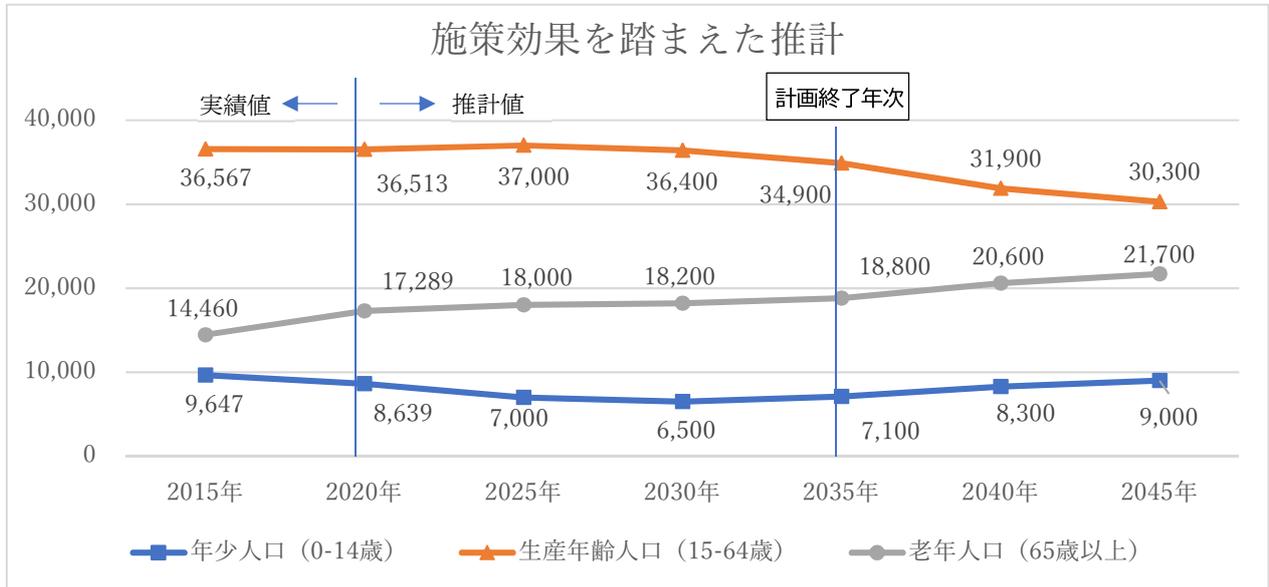


図 白井市の将来人口推計（年齢3区分別人口）

出典：「令和6年度人口推計報告書」

## 7.2 将来都市構造

将来都市構造を次のように定めます。

「市街地ゾーン」では、人のくらしや産業を中心としたまちづくりを進めます。

「人とみどりの共生ゾーン」は、人とみどりが共生しながら、地域の特性や魅力、ポテンシャルを生かしたまちづくりを進めます。

「中心都市拠点」では、コンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進めます。「生活拠点」では、地域住民のくらしを支える拠点づくりを進めます。

また、「中心都市拠点」や「生活拠点」と市内の各地域、そして市外を「広域幹線軸」や「地域軸」によって結ぶことで、にぎわいの創出や利便性の向上を図ります。

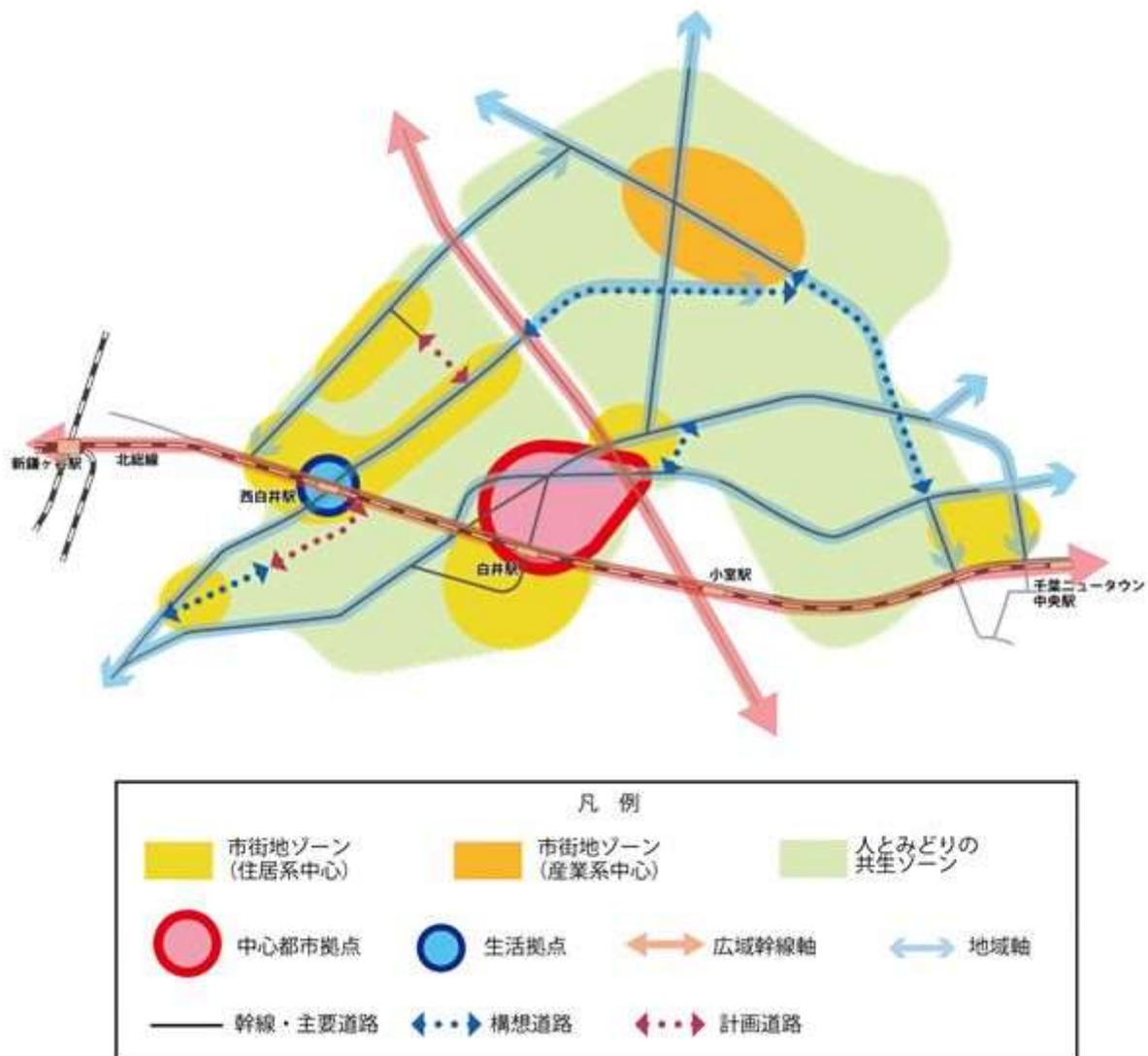


図 10年後の白井市の将来都市構造図

## II. 基本構想

### 8. EBPM の考え方に基づく取組展開

将来像と6つの目指すまちを実現するための取組の考え方を示します。

EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）とは、たまたま見聞きした事例や経験ではなく、データや合理的根拠（エビデンス）をもとに、政策（ポリシー）を立案することです。

このEBPMを実現するために、ロジックモデルを活用します。

ロジックモデルとは、政策の成果目標（アウトカム）や活動目標（アウトプット）、活動（アクティビティ）を視覚的に整理し、因果関係を明確にするフレームワークです。

ロジックモデルを作成する際には、事業により最終的に達成したい状況（最終アウトカム）の検討からはじめます。その上で、その最終的に達成したい状況を実現するためには何が必要か、という観点から逆算して中間アウトカム、初期アウトカム、アウトプットや活動、そのために必要な資源を検討します。

ロジックモデルを用いて論理的にわかりやすく整理することで、より効果的な取組を展開していきます。

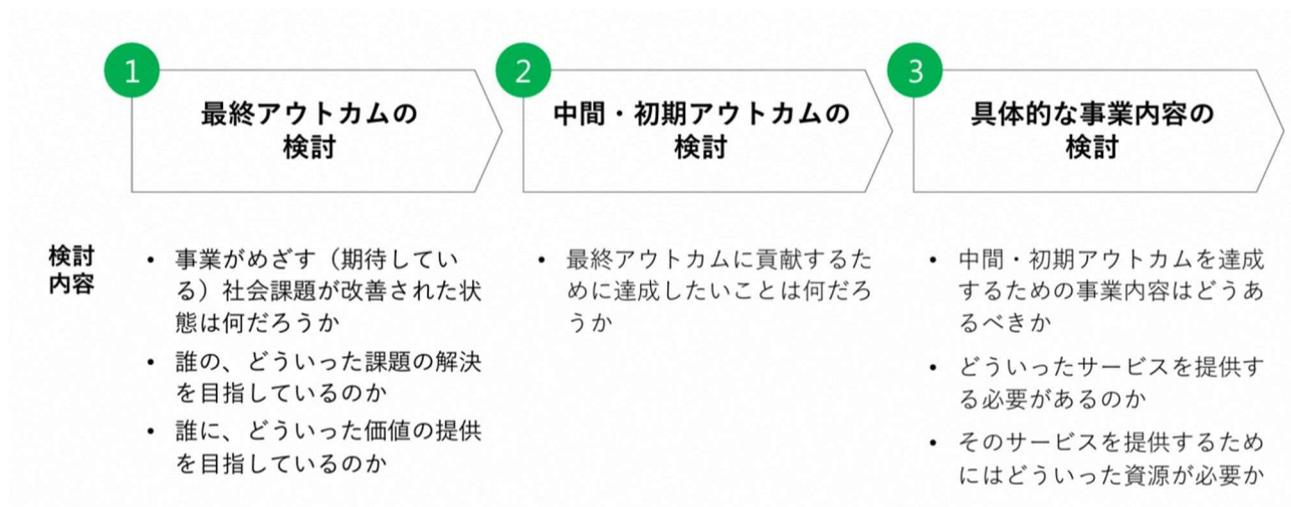
出典：内閣府 HP

現状把握 ・課題設定	インプット (資源)	アクティビティ (活動)	アウトプット (活動目標・実績)	アウトカム (成果目標・実績)	インパクト (国民・社会への影響)
事業を行う背景(現状)、解決すべき問題・課題	事業実施のために投入する予算等	実施する事業の内容	事業の活動目標・実績	事業活動を通じて得られる成果目標・実績。必要に応じて、事業活動の波及効果の時間軸に沿って、短期・中期・長期などと区分できる ※短期アウトカムは事業活動を通じて期待される短期的成果、中期・長期アウトカムはそれぞれ短期的成果・中期的成果の後に波及的に期待される成果を言う	事業活動を通じて実現すべき最終目的

参考図 ロジックモデルの考え方



参考図 ロジックモデルの考え方作成イメージ



参考図 ロジックモデル作成の流れ

出典:「ロジックモデル作成ガイド」(日本財団)